

丹後機業の動き

震災の影響長期化、生糸の暴騰・暴落、欧州不安で激動の1年

○日銀は、12月15日に発表した企業(短観)で、企業の景況感を示す業況判断指数(DI)が大企業製造業でマイナス4となり6月調査以来のマイナスと発表した。業種別では、電気機械や化学といった業種で悪化し、海外経済の減速や円高の影響が製造業の幅広い業種に広がっているとした。一方、内需関連では東日本大震災からの復興需要が出てきた建設やスマートフォン(高機能携帯電話)普及の恩恵を受けた通信など限られた業種が改善とした。しかし、3ヶ月先については、大企業製造業がマイナス5となり、一段と悪化する見通し。

○震災後、特に影響が大きかった東北・関東の小売市況は少しづつ影響が薄れつつあるようだが、和装市況は全般的に悪い状況が続いており、京都市況でも夏場以降に不振が目立った。そのため、産地は極めて厳しい状況が続き減産となっている。実需が少ない中で仕入れを控えているが、売れないので在庫がだぶつき、全体の商品価格が下がっている。最近では低価格品も売れなくなった。

○生糸価格については、今年に入ってから高騰が続いていたが、6月以降、大幅に下落した。取引先の多くの店が糸価が高いときの白生地を持っており、先に売れない状況もあり、手元の在庫を減らすことに主眼をおいている。また、欧州の金融不安により、来年の注文が大幅に減っている。そのため、生糸相場は当面落ち着くのではないかとの見方もある。

○白生地の精練工場では、入荷量は盆後少なくなり、月を追うごとに減少している。加工料の減少と燃料代・薬剤の高騰の中で、経営を維持するために加工料の値上げをした加工工場もある。

○カーシートの製織機業では、自動車生産の回復に伴いジャカードものについては仕事は戻ってきているが、ドビー機は仕事がない。工賃が安いと長時間の製織をしないと収入が上がらない。

タイの大洪水の影響は今のところ出ていない。(調査時期：平成23年11月中旬～12月初旬)

(調査機関：(公財)京都産業21北部支援センター)

【ちりめん(白生地)】

- 平成23年1～11月の生産数量は、43.6万反で前年比92.6%(無地9.6万反・同89.5%、紋34万反・同93.6%)となった。月別では1月と4月は前年並みであったが、その他の月で減少となっており、8月、10月、11月は二桁以上の減少率であった。
- 財務省の貿易統計によると、平成23年10月現在の小幅白生地輸入数量(無地及び紋)は、29.1万反で前年比87.8%と大きく減少している。このうち主たる輸入先である中国からは、20.4万反で前年比77.7%と大幅な減少となっており、モノが売れないから輸入量も少ないという結果が出ている。
- 3.11の震災の影響がジワジワと出てきており、大口の商いはなくなり、多品種小ロット且つ即納期で細かい商いとなっている。適性品がなく、新柄を提案し、消費者が求める着物をつくるのが大切としている。国内他産地の状況も厳しく、丹後は目標の48万反に届かないかもしれないがまだましとの意見も聞かれた。

【帯地】

- 平成23年(1～9月)の西陣帯地推定出荷数量は、52.8万本で前年比82.1%とかなり落ち込んだ。主力の袋帯が同96.8%と比較的減少は少ないものの主にしゃれもの用として多いなごや帯は同80.7%と大きく落ち込んでいる。
- 全体として機は動いているが、受注生産が多くなり、多品種小ロットで品種によっては減少している。経待ち、緯待ちのない機業では、帯1本毎に柄や配色が変わることから、稼働率が悪くなり、実質の生産調整となっている。また、京都直接の機業では、休機補償が出ているところもある。
- 取引先から、丹後の証紙の要望があり、「丹後帯」として丹後織物工業組合発行の帯地証紙を登録し、丹後の新鮮さを出していこうとする動きもある。
- 織り手の確保について、どこも危機意識を持っており、内機を置いて後継者の育成に力をいれはじめてきたところもある。

【広幅織物】

- 服地素材のポリエステルちりめんは、京都の扱いが少なくなり回復しない。平成9年の最盛期の10分の1にまで減少している。代わりにポリちり以外の複合素材が多くなり良いものは出来ているが売り先が小さくなった。合織関係の糸価は高止まりの状態、製品価格に転嫁出来ず苦戦している。
- ネクタイは、スーパークールビズの影響で売れ行きが悪く、7～9月の生産は、極端に悪かった。その続きの影響と残暑もあり、秋物も売れなかった。需要減少の中で、自社のオリジナル商品の開発や異素材を組み合わせた物を作る意欲もみられた。一方でマフラー、ショール等は好調な様子が聞かれた。
- カーシートは、広幅化と経糸の高密度化の傾向にあり、機拵えの変更等を求められている。新柄のサイクルが短くなり、以前は4年は続いたが、今は2年で短い物は4ヶ月程度のものもある。お守り地は製織は多忙であるが、配色・柄の変更が多く、その都度手間がかかる上に、納期厳守で大変との声が聞かれた。テーブルクロス等のインテリア素材はホテルの経費の節減もあり、全体的に悪い状況である。

【小物】

- 300#の風呂敷は、4月～9月までは非常に悪く前年比60%まで落ち込んだ。糸価の高騰を製品に転嫁出来ず採算が合わないとして廃業した機業もある。
- 震災後、和装小物は不振であり、6～7月は常の3分の1程度であり、以降10月まで同じ状況が続いている。正絹の半襟、帯揚げ関係は20～30%の減少である。売れないから中国からの輸入も減少してきている。取引先によっては、歩引きがあり、歩引きで値引きされると儲けがなくなるので、安くても歩引きなしの商売がしたいとの声も聞かれた。